

「コシヒカリ」の千粒重増大のための適正移植時期 に関する栽培技術マニュアル

農業総合センタ - 農業研究所

1. 技術の概要

「コシヒカリ」は移植時期を5月10日頃に遅らせることで、4月下旬移植に比べ生育量が制御され、高温下の登熟も回避されることから、千粒重が0.5~0.8g増大する。

1) 移植時期と生育の推移

移植時期を遅らせると分けつが少なくなり、過繁茂になりにくい。幼穂形成期の葉色は従来の4月下旬移植で4程度と濃く推移したのに対し、5月上旬以降の移植では3~3.5程度と薄い。

2) 移植時期と収量、品質、登熟温度の関係

5月10日以降の移植は、出穂期が遅れることで登熟期の高温が回避でき、千粒重は4月下旬移植より0.5~0.8g増大する。収量は5月中旬以降の移植で低下する。白米粗タンパク質含量は5月下旬移植でやや高まる。従って、適正移植時期は5月10日頃である。

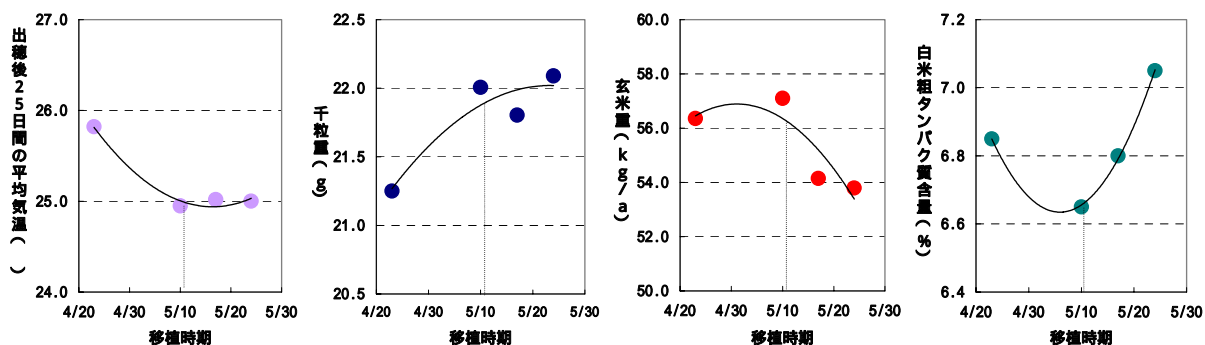
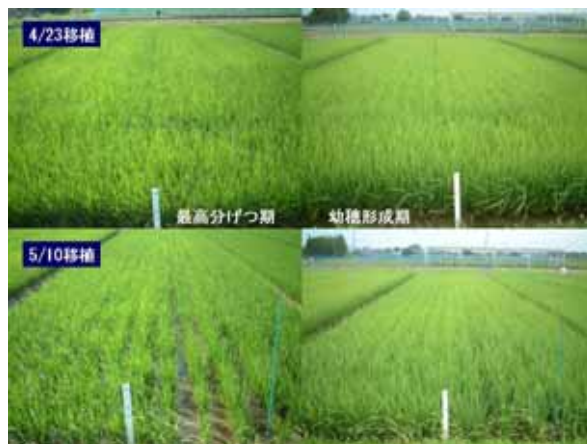


図1 移植時期と登熟温度・収量・品質の関係

3) 5月10日移植の栽培法

- (1) 栽植密度及び植え付け本数：株間は18cm程度、1株当たり4~5本植えとする。
- (2) 基肥窒素量：土壌診断により適正施用量を決定する(概ね10a当たり2~5kg)。施肥時期が早いと肥料成分が溶出するので、移植時期に合わせて施用時期を遅らせる。
- (3) 穂肥：出穂前20~25日の目標生育量は、葉色がカラスケールで3.0~3.5以下、茎数がm²当たり500~600本程度である。この程度の生育量であれば、出穂前15~18日頃(幼穂長1~4cm)に速効性窒素で10a当たり窒素2kg施用する。

2. 適応地域及び普及対象

適用地域は県内全域とする。普及対象農家は4月下旬移植が多い県南・県西地域のコシヒカリ生産農家。

3. 栽培管理の留意点

- 1) 育苗：播種期は4月15日頃とし、播種量は箱当たり乾粕150gとする。従来の4月上旬播種より高温下での育苗となるので、育苗期間は20日程度を目安とし、温度管理にはこれまで以上に留意する。
- 2) 水管理：4月下旬移植に比べ分けつが少ないので、従来の間断灌漑、中干しで対応できる。中干しはm²当たり茎数が350本以上(株当たり約20本)になったら始める。中干しは6月下旬~7月初旬にかけて7~14日程度行う。その後は間断灌漑を行い、落水は出穂後30日頃とする。

<問い合わせ先；農業研究所水田利用研究室 電話0297(62)0206>